

2023年10月27日

関係各位

野村ホールディングス株式会社

コード番号8604

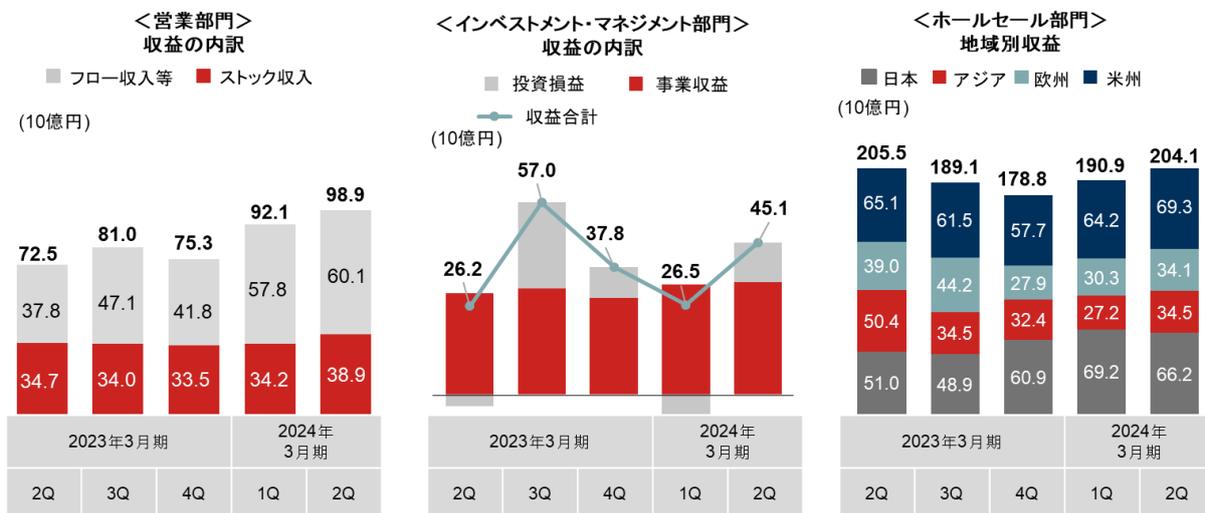
東証プライム市場・名証プレミア市場

2024年3月期第2四半期の連結決算について

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)は2024年3月期第2四半期(2023年7-9月、以下「当四半期」)と2024年3月期上半期(2023年4-9月、以下「当上半期」)の連結決算を発表しました。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「当上半期の主要3部門の税前利益は892億円(前年同期比79%増)となりました。当四半期はすべてのビジネス部門が増収増益(前四半期比)を達成するなど、これまで取り組んできた戦略の成果が数字に現れる結果となりました。営業部門の業績が大きく改善しています。期初に実施した富裕層領域への戦略的な人員増強が奏功し、フロー収入の増加に加え、ストック収入は過去最高となりました。インベストメント・マネジメント部門は、事業収益が部門設立後で最高水準となりました。投資信託ビジネス、投資顧問・海外ビジネスともに資金純流入が継続し、運用資産残高が過去最高を更新しました。ホールセール部門は、インベストメント・バンキングとエクイティが増収となる一方、海外のフィクスト・インカムが低調で、減益となりました。引き続き、グローバルに各地域で競争力のある事業に注力することで収益の拡大を図るとともに、コスト・コントロールを徹底し、経費率の改善に取り組んでいきます。今後も、ビジネスを着実に推進し、しっかりと成果を出していくことで、中期的にROE8~10%を安定的に達成できるビジネス基盤の確立を目指してまいります」



決算ハイライト

<当上半期>

全社

- 当上半期の全社税前利益は1,030億円となりました。
- 当上半期のROEは3.6%でした。
- 2023年9月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2023年12月1日)は、1株当たり8円です。

	2024年3月期上半期	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	7,167億円	+16%
税前利益(損失)	1,030億円	+138%
当期純利益(損失)	586億円	3.2倍

主要3部門

- 営業部門は、お客様ニーズにより的確に対応するために今春実施した体制整備が奏功、株式市場の活況も追い風となり、業績が大きく改善しました。
- インベストメント・マネジメント部門は資金純流入を伴って運用資産残高は過去最高を更新、安定収入である事業収益が拡大し、投資損益も改善しました。
- ホールセール部門はエクイティおよびインベストメント・バンキングが増収となるも、不透明な市場環境を受けて海外フィクスト・インカム(特に金利、為替/エマージング)が低調で、減益となりました。

	収益合計(金融費用控除後)		税前利益(損失)	
	当上半期	前年同期比	当上半期	前年同期比
営業部門	1,910億円	+33%	520億円	5.0倍
インベストメント・ マネジメント部門	716億円	+112%	268億円	-
ホールセール部門	3,949億円	△2%	104億円	△77%
合計	6,576億円	+13%	892億円	+79%

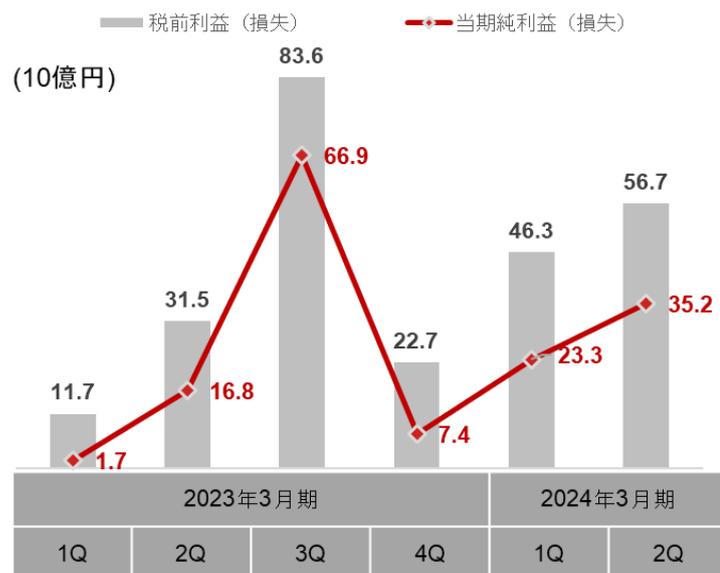
<当四半期>

全社

- 全社の税前利益は567億円(前四半期比23%増)、当期純利益は352億円(同51%増)でした。
- 当四半期のROEは4.3%でした。
- すべてのビジネス部門が増収・増益を達成し、主要3部門の税前利益は605億円(同111%増)となりました。
- 主要3部門以外では、経済的ヘッジ取引に関連する損失(89億円)やデリバティブに関する自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する損失(18億円)などにより、65億円の税前損失となりました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,678億円	+5%	+16%
税前利益(損失)	567億円	+23%	+80%
当期純利益(損失)	352億円	+51%	+110%

全社の税前利益(損失)、当期純利益(損失)

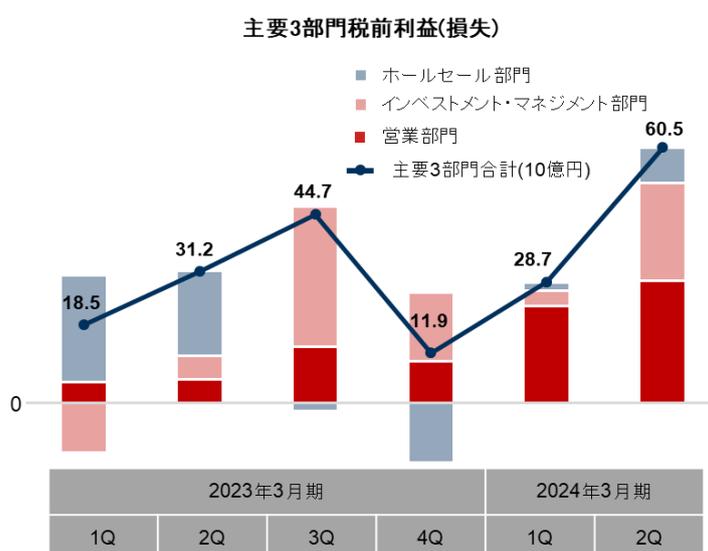


主要3部門

- 営業部門は、お客様のニーズにより的確に対応するための人員再配置が奏功し、フロービジネス顧客数は前年を大きく上回って推移しました。国内株式や投信を中心に総募集買付額が伸長し、フロー収入等は前四半期比で増加しました。安定収入であるストック収入は過去最高を記録し、コスト・コントロールにも努めた結果、ストック収入費用カバー率は56%に上昇しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、投資信託ビジネス、投資顧問・海外ビジネスともに資金純流入が継続し、運用資産残高(76.5兆円)が過去最高を更新、事業収益は2021年4月の部門設立以降で最高となりました。投資損益の改善もあり、部門収益・税前利益は前四半期から大幅に回復しました。

- ホールセール部門は、日本・米州・アジアでエクイティ収益が伸長、インベストメント・バンキングもECMやアドバイザーなど日本関連案件の増加が貢献して増収となりました。前四半期からの部門コスト増加は、円安進行が主な要因です。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
営業部門	989億円	+7%	+36%	290億円	+27%	5.3倍
インベストメント・マネジメント部門	451億円	+70%	+72%	232億円	6.4倍	4.2倍
ホールセール部門	2,041億円	+7%	△1%	83億円	3.9倍	△59%
合計	3,481億円	+13%	+14%	605億円	+111%	+94%



【ご参考】

[野村ホールディングス株式会社 2024年3月期第2四半期決算短信](#)
[2024年3月期第2四半期決算説明資料 米国会計基準\(US GAAP\)](#)

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<https://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2023年10月27日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<https://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2024年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。